

# MORIOKA YMCA NEWS

## 盛岡YMCAの使命

私たち、盛岡YMCAは、イエス・キリストによって示された生き方に学びつつ、豊かな自然と歴史的伝統に満ちた岩手の地で、子ども、家族、地域とともに公正で平和な世界の実現を目指します。

1. 子どもたちの個性を大切に、それぞれの夢や希望、生きる力を育みます。
2. 家族の絆といのちの大切さを深め合います。
3. 共に生きるために、異なった文化、多様な価値観と出会う場を提供します。



2011年1月号 特集：盛岡YMCA 前潟センターオー



編集発行人：濱塚有史 発行所：特定非営利活動法人 盛岡YMCA 岩手県盛岡市本町通3-1-1

TEL 019(623)1575 e-mail: morioka@ymcajapan.org URL: <http://www.ymcajapan.org/morioka/>

## 小さな種まき

伊東恵合子（盛岡YMCリーダーOG）

何が人の進路の決定に影響を与えるか、本当に分からないものだ。私の場合は教員を目指して盛岡YMCAのリーダーをさせていたでいたものの、大学3年生のときに参加した仙台YMCAのタイ農村ワークキャンプがきっかけとなり、海外に目を向けることとなった。今はJICAという団体で国際理解教育の推進に携わっており、小中学校を中心に様々な方のお話をする機会に恵まれている。進路として教員の道を選ばなかったものの、偶然か必然かやはり子どもたちと一緒に過ごす時間は多く、それがまた不思議な気がする。

国際理解教育の関係者と話をしているとき、度々話題にのぼるのが「今、全部分からなくてもいいんじゃない？」ということ。国際理解教育では、子どもたちに世界の文化の多様性やその背景について紹介し、子どもたちの考えを引き出しながら対話する。この作業は、海外の文化と比較しながら日本や自分自身について見つめなおすことにもなり大変貴重な時間である。ただ、（国際理解の分野に限らずどんな話でも）どんなにかみ砕いて話したところで、経験がまだまだ少ない子どもが話を完全に理解するのは難

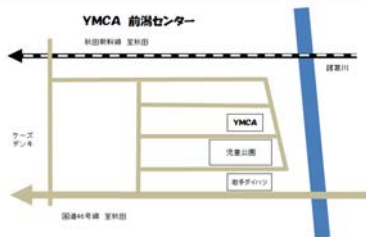
しい部分もある。でも面白いことに、分からない部分が多々ありながらも、彼らはあのときの話をしっかり覚えていて、数ヶ月～数年後に「あの話はこういう事だったのか」と実感を持って思い出すのだという。

大学生リーダーのときに、子どもたちや保護者の皆さん、リーダー仲間やスタッフから多くを学ばせてもらったが、それから十年近くたった今になってなお「こういうことだったのか」「あのときはこう思ったけど、また別の考え方も出来るかも」等いろいろなことをふと思い出しては妙に納得することがある。（子どもたちと駆け回って遊んだ雄大な自然のこと、ふるさと東北のこと、教育のこと・・・）成人している私でさえそうなのだから、柔軟で吸収力に長けている子どもたちはなおさらだと思う。盛岡YMCAも楽しい思い出だけでなく、忘れた頃にふと芽を出して進路を左右するかもしれない気付きや学びの種をそこここでまいている気がする。

# YMCA前潟センターオープン!



←すぐ近所には公園もあります。



前潟、土淵、長橋台地区の学童保育の待機児童に対応するため、来年4月から前潟地区で学童保育を開設します。来年度より、盛岡YMCA学童保育ぷらいむ・たいむ「本町校」、ぷらいむたいむ「前潟校」とう名称で2か所で学童保育事業を運営することとなりました。前潟地区のYMCAの名称は「盛岡YMCA 前潟センター」で主な事業は、学童保育、語学教育事業となりますが、今後、地域のニーズに答えて様々なプログラムを提供していければと考えています。

年末は、4月の学童保育の開設に備え、ウインタースクールを実施しました。



## 前潟ウインタースクール1クール



12月26日から29日までの4日間、盛岡YMCA前潟センターでウインタースクールが行われました。今年は例年になく大雪が降り積もり、これはもう雪でとことん遊ばないでしようということ、センターの隣の公園で毎日雪遊びをしました。かまくら作り、雪合戦、そのジャンプ台、人型づくり、しまいには、雪でお風呂やトイレ作りもしました。そして、外で思いきり遊んだ後はみんなでおやつを作り食べました。そんな毎日を過ごしなが、空いている時間を使って最終日にみんなで何をするかを話し合いました。今回、最終日は参加しているリーダー、メンバーみんなで話して決めようとミーティングでも決めていました。話し合いの末、最終日はみんなで遊んだ後に食材を持ち寄って鍋をすることになりました。最終日、全員集合したらさっそくみんなで大かくれんぼをしました。ちょっとだけのはずだったのですが、『もう一回』が続き時間はあつという間にお昼をまわっていました。そして、かくれんぼが終わったらお待ちかねの鍋作りをしました。持ち寄った食材を合わせると大変な量でしたが、作った鍋は『おなかいっぱいだ〜』といいながらもきれいに完食しました。

4日間を通して、参加しているみんなでやりたいこと、やるべきことを作り上げていくことが出来たと思います。参加してくれた子どもたちも、自分達が過ごす時間を、過ごす自分達で作っていく楽しさを感じてくれたら幸いです。

また、来年4月より前潟センターにて、学童保育『ぷらいむ・たいむ前潟校』が開校します。いま開校に向けてセンターの方でも着々と準備を進めています。これから4月までの間、今回のウインタースクールの様に、前潟センターで行うプログラムがあると思いますのでご期待下さい。(小川)

## キッズクリスマス 2010. 12.16



今年のキッズクリスマスのメンバーは、子ども21人、スタッフとリーダーが12人の、合わせて33人でした。会場の内丸教会は、始まる前から大騒ぎです。いよいよキッズクリスマスが始まり、礼拝のためにろうそくが配られます。ろうそくの灯りだけになった内丸教会で、内丸教会の牧師をされている中原先生のお話を聞きました。それぞれろうそくの火を見つめながらの、静かで不思議な時間でした。さて、なかなか経験することのない礼拝の後は、ゲームです! 同じ楽器が描かれたカードを引いた人同士、ジェスチャーと楽器の声真似だけで仲間を集めます。内丸教会はたちまちばらばらな大合奏でいっぱいになりましたが、その中で何とか仲間を探し出し、みんなチームを作ることができました。ようやく見つけたチームで、今度はピックじゃんけんが始まりました。チームのメンバーがそれぞれ5本の指になって、ほかのチームとじゃんけんのガチンコ対決をします。それぞれ負けられない戦いに大盛り上がりでした。お楽しみのプレゼント交換ではもらったプレゼントに喜んだり、「それ私が持ってきたやつだよ」と話をしたりする姿があちこちで見られました。たくさん遊んだ

ところで最後におやつタイム。みんなお菓子を食べながら和んでいると…突然トナカイやらサンタやらが乗り込んできました。中にはサーファーもいて、みんな突然の出来事にぼかんとしたり騒ぎ出したり…こうして不思議な団体はみんなにクリスマスカードをプレゼントして帰って行ったのでした。





## ★スキーキャンプ リーダートレーニングが行われました。

12月18～19日にかけて八幡平リゾートスキー場にリーダートレーニングに行ってきました。前日に積もるほどの雪が降ったので、良いコンディションで滑ることができました。スキーの技術指導・対象理解・安全理解などのリーダートレーニングを積んできましたが、理解していても実際に滑ることができなくてはいけません。自分のレベルも滑らないことにはわかりません。自分自身も子どもに指導できるように滑ることができることによって当日の活動でより子どもと楽しんでいけるし、イメージもいろいろと湧いてくると思いました。

この一泊リーダートレーニングで指導してもらい、2日間滑り続けたことによって技術面でも上達したのが分かりますが精神面においても少しずつ自信がついていきました。リーダーみんなが必死に体を熱くしてトレーニングを受けていました。いよいよ26日からはエンジョイスキーキャンプが、27日からはエンジョイスキーキャンプが始まります。このウィンタープログラムを参加してくれた子どもリーダー含め全員で盛り上げていきたいと思えます

盛岡大学 文学部 児童教育学科3年  
前田 裕太 (ズン)

## 社会人になった ③ シロクマリーダーの料理教室



明けましておめでとうございます。2011年も引き続きシロクマの料理教室を掲載していきます！今年もよろしくお祈りします(´0´)！

さて、みなさん、お正月に餅は食べましたか？日本人ならそりゃ食べますよね～♪お雑煮、あんこ、きな粉、磯部、くるみなど基本の食べ方がある程度制覇したら、たまにはちょっと違う食べ方で餅を楽しんでみませんか？

ということで、2011年一発目のメニューは...ジャジャン♪「餅と大根おろしの和洋焼き」です!!

### 【材料】(2人分)

切り餅 2個、大根 4cmくらい、とろけるチーズ お好みで、醤油 少々

### 【作り方】

耐熱皿に大根おろしを敷き、醤油をひと回しします。(大根おろしの水気はお好みで切ってください)

餅を2cm角くらいに切って大根おろしの上に並べます。

チーズを乗せ、トースター(オープンなら180度)で10分ほど焼きます。完成☆

この基本レシピにツナやじゃこ、桜エビ、海苔などを加えて、自分流にさらにアレンジすることもできます！いろいろ試して、自分だけの新しい味を発見しちゃってください☆

ここで豆知識！大根には食べ物の消化を助けてくれるジアスターゼという酵素が含まれています。しかし、加熱すると効果が弱まります。なんせ酵素なので、、、。よって、生の大根が一番消化を助けてくれるんです。

## 表紙の写真から



前潟センターでのウィンタースクールには、本町の学童の子どもたちが参加。施設の新鮮さにウキウキしている様子でした。(小川)

## 全国YMCAニュース [THE YMCA12月号より]

### YMCA発 東大出身Jリーガー 久木田紳吾さん

小学時代、熊本YMCAでサッカーを始め、現在東京大ア式蹴球部(サッカー部)キャプテンであり、J2岡山特別指定選手となった久木田紳吾さん(22)をご紹介します。

#### ■「人を育てる」YMCAとの出会い

YMCAとの出会いは、幼稚園生のときのプール通いからです。クロールができなくて、YMCAの迎いのバスが来るとイヤがって泣いていたと母から聞いています。それが小学3年の終わりに、友だちに誘われてサッカークラスに通うようになってからは中学3年生まで、YMCAのサッカー一色の生活。中学から県の選抜チームに加えてもらえたのも、YMCAのリーダーのつながりからでした。小学6年のおとき選抜チームとして九州全域の大きな大会フジパンCUPで優勝したこと、YMCA全国大会に遠征して全員メダルがもらえて驚いたことなど、よく覚えています。



YMCAでは、サッカーを通して「人を育てる」ことに力を入れていました。ボランティア活動、あいさつ・礼儀作法、フェアプレイの精神の大切さを教わったように思います。リーダーやスタッフといっしょに素手でトイレの掃除をしたこともありました。人として、感謝の気持ちを忘れないこと、コツコツがんばる気持ちは、いまになって本当に力になっています。

#### ■信頼して、素直に受け止める心

YMCAは、何より、リーダーの存在が大きいですね。リーダーにかわいがってもらった原体験があったからこそ、「サッカーが好きだ」という気持ちを持ち続けることができたと思います。信頼できるリーダーとの出会いによって、子どもたちは自然と心をひらき、素直になり、言われたことは批判的なことでもきっちり受け止めることができるようになります。選手として向上するもっとも大切な素質、土壌が作られるのです。

#### ■勉強との両立 「負けず嫌い」

サッカーを続けるには、家族の支えが欠かせません。グラウンドまで毎日のように送迎してくれる母に対して、「サッカー以外もちゃんとする」というルールが自然とできていました。強制されなくても、勉強は進んでしていました。根本的には「負けず嫌い」。サッカーは好きだから誰にも負けたくない。サッカーを続けたいから、勉強する。勉強もやるからには、負けたくない。

東大に入ったときはまだ将来の夢は決まっていませんでしたが、入学式で、全盲、全ろうで博士号を取得した福島智教授の「誰も挑戦したことのないことに挑戦することこそ価値がある」という祝辞に心揺さぶられ、サッカーと勉強だけに集中して、東大出身のプロサッカー選手を目標とするようになりました。

#### ■サッカーがうまくなるには

うまくなるには、サッカーを好きになること。信頼できる指導者との出会い、あと、ボールに触れる時間を長くすることでしょうか。サッカーは個の力とチームの力どちらも必要です。「ゴールにつながるプレイ」ができることが一番の喜びです。僕はガツガツいくFWで、自分でゴールを決められたら最高ですが、チームメイトと息の合ったプレイで得点につながるのがサッカーの醍醐味です。

Jリーガーとして、試合に出て、結果を出していきたい。応援してください。

# 1月の予定

- ★ 1月11日(火) 水泳火曜コース3期開始
- ★ 1月15日(土) 本町サッカー3期開始  
ワイズメンズクラブ新年例会  
(於: JARAN JARAN)
- ★ 1月16日(日) アドベンチャー「日帰りスキー教室」  
於: 八幡平リゾートスキー場
- ★ 1月17日(月) 小学生英会話教室  
中学生準備英語火曜コース  
中3長文読解英語3期開始
- ★ 1月18日(火) 盛南サッカー教室3期開始
- ★ 1月19日(水) 水泳水曜コース3期開始
- ★ 1月20日(木) 松園サッカー3期開始  
中学生準備英語木曜コース3期開始

- ★ 1月21日(金) 篠木サッカー教室3期開始  
ワイズメンズクラブ主催  
「ソバ打ち体験教室」  
(於: (おでって5階))
- ★ 1月23日(日) サンディスクール
- ★ 1月24日(日) 土淵サッカースクール3期開始
- ★ 1月29日 盛岡YMCA 理事会・常議員会  
(於: アイーナ)
- ★ 1月30日(日) アドベンチャー「日帰りスキー教室」  
於: 八幡平リゾートスキー場

# 2月

- ★2月6日(日) アドベンチャー「そりに挑戦!」  
(於: 小鹿牧場)

## 感謝

2010年度

順不同・敬称略

### ●維持会員

菊池崇江、熊谷太、鶴丹谷三千代、水田賢次、新里ちえ子、金田一世美子、重石桂司、大関靖二、長谷川精一、北田アユ子、田村治江、伊藤克見、伊藤喜代、濱塚秋二、濱塚れい子、布川雅樹、布川直子、神永瞳、小畑孝子、松尾聡子、及川茂夫、及川恵、川守田浩、晴山真理子、工藤直子、竹内一真、清水弘一、吉崎陽、千葉代子、今松桂子、金野東輝子、井上修三、井上優子、井上浩太郎、阿部靖、今野聖子、今野健男、金田節子、中原眞澄、古澤伸、角谷晋次、角谷千代子、佐藤翔、伊藤眞一郎、伊藤みどり、長岡正彦、越前谷洋子、池田二郎、石渡隆司、濱塚有史、濱塚真美

### ●寄付金

熊谷太、水田賢次、長谷川精一、伊藤克見、伊藤喜代江、布川雅樹、布川直子、神永瞳、及川茂夫、及川恵、川守田浩、工藤直子、清水弘一、吉崎陽、今松桂子、杉下一郎、井上修三、阿部靖、今野聖子、中原眞澄、角谷晋次、佐藤翔、伊藤眞一郎、伊藤みどり、越前谷洋子、池田二郎、石渡隆司

### ★維持会員★

盛岡YMCAは、1983年から活動を始めた世界を見つめながら盛岡の地域に根ざした活動を多くの方々と支えられながら続けてきました。維持会員とは、盛岡YMCAの使命に賛同し盛岡YMCAの活動を支えるため、維持会費を払って会員となった方々です。

◆盛岡YMCAの維持会員としてYMCAの諸活動をお支え下さい。申し込み方法は、YMCAにお問い合わせ下さい。

## 感謝

2010年度 12月5日現在

順不同・敬称略

### ●国際協力募金

Michael Jackson (匿名) 吉田光希(サッカースクール) 庄司翔太(学童保育)、三上彩音(水泳教室) 川村愛望(学童保育) 鈴木聖流(学童保育) 関まなな、関希(ベスト・キッズ) 菊池崇江(ワイズメンズクラブ)、及川響(ジュニアユースサッカー)、山本真大(ベスト・キッズ)、西里龍哉(学童保育)、濱塚牧人(ジュニアユース) 濱塚直樹(メンパ・OB) 矢田部直輝(ベスト・キッズ) 菅原陸・柊・空(ベスト・キッズ) 阿部実結(学童保育) 伊藤藤馬(ベスト・キッズ) 三上隆生・絢土(ジュニアユースサッカー) 廣田貴大(サッカースクール) 高橋翔汰(水泳教室) 吉田伶(学童保育)、宮野桐次(水泳教室)、田村孝太(水泳教室) 山崎詩織(学童保育) 阿部春陽(学童保育)、小船秀斗(水泳教室) 千葉代子(ワイズメンズクラブ)、佐々木良英(学童保育)、水田賢次(理事) 伊藤克見(維持会員) 伊藤喜代江(維持会員) 工藤直子(維持会員)、大関靖二(ワイズメンズクラブ)、濱塚秋二(維持会員) 川守田浩(維持会員)、重石桂司(監事) 鶴丹谷三千代(理事)、原田麻由(リダー) (理)事、原田良哉、小林茂元、川底拓洋(水泳教室) 川底優祐(水泳教室)、荒川眞輔(サッカースクール) 興盛工業所岩手支店、伊藤眞一郎(維持会員)、伊藤みどり(維持会員)、小畑孝子(維持会員)、新里ちえ子(維持会員)

## あの頃君は～ ♪若かった～♪④ おかわりリーダーの巻



どうも

こんにちは☆おかわりです！今回の「あの頃君は若かった♪」登場するのは僕です！写真は僕が1才頃の写真ですが、家の廊下で無邪気に遊んで笑っている表情がとても愛くるしいですね☆末っ子ということもあってか、家族・親戚のみんなからかわいがられて育ちました。この子が21年後、長野から遠く離れた盛岡でまた別のかわいがり方でみんなからかわいがられることになるとは…(笑)

僕の家は山のふもとにあって、周りには山、森、川、田んぼ、畑と自然であふれたところでした。その中で姉貴と一緒にファンタジーの世界に没頭して冒険ごっこに熱中していたことをよく覚えています。また、学校から遠かったので、1時間以上かけて帰る帰り道が遊び場でした。ひたすら雪だまを転がし続けたり、途中で昼寝したり、よくわからない実を食べてみたり…それと友達と話し続けて帰ったのも大切な思い出ですね。今振り返ってみると、たくさん遊んだけどもっといっぱい遊んでりゃよかったな～と思います。もし戻れるのならばあんなことやこんなこともしてみたい！

最後に一言。「あの頃君は若かった」！？いえいえ、まだまだ若いですよ！

### こほれ種③

## 「自動詞」の運動

日本基督教団 内丸教会牧師 (元日本YMCA同盟 主事)  
中原真澄



YMCAの特徴として挙げられる一つに、国際的な広がりがあると思います。実際、19世紀半ばロンドンに最初のYMCAが出来て僅か数年でヨーロッパ大陸やアメリカに伝わり、半世紀を経ずに日本の都市や大学にいくつかのYMCAが生まれていたのですから、その感染力はかなりのものでした。でもその力は当時の政治力学によるのではなく、YMCA運動の中心メッセージ、即ち、青年自身による自立した青年の全人的育成を目指す…という中味の力だったと言えます。＜育成＞と言うと、オトナ目線の上から下を育てていく…的に感じますが、YMCAの場合、最初から異なっていました。YMCAを始めた人たちも20代で、＜対象＞の青年を指導・育てるものではなく、今の言葉で言えばピア・グループ活動に近いものだったと言えます。同じ世代、同じ環境にいる者同士が、指導者－対象者という区別なしに、心を開いて語り合う「場」を創ることが最も大切なことだったのです。そこから奉仕や学習・講演会、体育活動等、様々なプログラムが地域や国の状況に応じて生み出されました。運動は国を超え、同世代の共感を根底に、青年たちの自主的運動として広がったのです。ですからYMCAの＜育成＞は、「育てる・成らせる」の他動詞ではなく、「育つ・成る」の自動詞で、それを欠いては、どんな立派な建物や大勢の会員がいても、YMCAとは言えないのです。どんなに小さな子どもが対象のプログラムであっても、そうなのです。そこでの子ども達も、学ばされ・楽しまされる＜対象＞に止まらず、苦勞も失敗もある中、自ら考え・動き・創りだしていく…そのような＜主体＞として育っていくことにおいて彼ら自身がYMCAをつくる存在である…そのことを決して忘れてはならないのです。

「この自由を得させるために、キリストはわたしたちを自由の身にしてくださいました。だから、しっかりしなさい。奴隷の轡に2度とつながれてはなりません」。

(新約聖書 ガラテヤの信徒への手紙 5章1節)